

# 里親だより

Vol.50

令和2年(2020年)2月13日発行  
長野県里親だより編集委員会

## 1 巻頭

### 「夢のような話ばかり」



長野県里親会連合会 会長 杉山 伸幸

先ずは自分の結婚から、二十四歳同士、結婚してくれるのかしら…との夢が現実になった。

昭和58年に里親認定をいただきましたが、昭和63年頃に預かった里子さんを平成30年に養子縁組してから結婚の運びとなった。お嫁さん共々、名実共に私の子どもとなり、令和元年十一月に男の子の誕生。孫ができて、里子さんから養子縁組までのプロセスのことを考えれば、孫まで授かり夢のような話になった。

私は、何故里親を目指したのだろうか？といつも自問し、自分自身の元一日の心持ちを確認する毎日です。

誰しものが、可哀想と思ったら、手を差しのべたい、と思います。そこまでは常識の通用する世界です。そこから、どう一歩踏み出すかが思案のしどころです。自分の心を振り返る時、何故その一歩を踏み出せたのか？それは、他人の子どもを預かるなんて生半可なことではできないぞ、という心と、いや、子どもには何の落ち度もなく可哀想だから預かった方が良いという自分の心のせめぎあいの末、自分の心の中で、折り合いがついた末に、里親になろう、と決心をしたのではないか、と思うのです。そう決まってしまうと、あとは家族への説得です。私の場合は、実子も幼いので、一番抵抗勢力である家内の説得にかかります。最終的には家内とも折り合いをつけて、晴れて里親登録ができるのです。

児童相談所に申し込みに行く前に、これだけの苦心苦労をしていますので、申し込みの時点で、合格ラインの五十点は付けていただきたい(笑)とお願いしたいのです。家の経済の問題はその次の次ぐらいのものです。

全国の里親さん達は、常識の世界から、一歩も二歩も子どもたちを助けたいと、勇気をもって踏み出された皆さんであろう、と思い、多くの里子さん達を育てる日々のご苦労、ご苦心に心から敬意を表しています。

「何から何まで本当に助かっています。沢山稼いで、いつか恩返しします」里子からの夢のようなメールも届きます。

ありがとうございます。



## 2 里親活動報告

### 『コミュニティの子育て』

佐久里親会 会長 市川 フロスト 和美

私たちは、社会的養護を必要とする子ども達を家庭で育てるという大切な役割を担っています。しかしながら、里親制度はまだ、広く周知されていません。

3年前から、こども支援団体、個人、行政が一体になり、「官民」で活動する「佐久地域子ども応援会議プラットフォーム」が立ち上がりました。

「こども食堂」「学習支援」そして、「相談」という部会があり、文房具や学習用品などのリユースなども行っています。

私は、「親子分離」がされないことを理想に思っています。早めの介入で子どもと親を支援することは不可欠です。

しかし、お子さんの中には、虐待を疑われ、一時保護される子もいらっしゃいます。そのような場合、普段から通っている「こども食堂」「学習支援」で、すでにお世話になっている大人の家庭に一時保護委託されたら、どんなに心強いでしょうか。

プラットフォームを通して、普段、子ども達を支援している方々に、ペーパードライバーのように「ペーパー里親」という名で啓発活動をしています。

里親登録さえしていれば、近所の一人親が具合の悪い時に、お子さんを里親としてお預かりできる。通ってくるお子さんが、「お家に帰りたくない。」と言ったら、保護者が、SOSを出したら、虐待をする前に児童相談所と連携ができる。そんな社会を目指して、コミュニティで子育てができるように声をかけています。

市町村の行政の方々にも里親が直面する問題などを話しています。「新しい社会的養育のビジョン」の数字は出ましたが、里親委託が成功する秘訣は、受け皿の市町村やコミュニティがどれだけ里親を理解しサポート体制を築いていけるかだと思います。

毎月、第2土曜日「里親子実子こども食堂」を開催していきます。里親や子ども達だけでなく、コミュニティの方々、行政の方々と一緒に「こども食堂」にて、交流ができると良いと思っています。



### 3 研修会報告

飯田児童相談所管内里親会  
ペンネームSUDONさんより

去る令和元年11月8日(金)に行われた令和元年度第三回里親更新研修会に夫婦二人で出席させていただきました。天気も良く小春日和、伊那防災コミュニティーセンターには初めて行きました。10時~16時まで丸一日しっかりと研修させていただきました。主人とは別々の離れた席に決められていて座りました。「何が始まるのかな?」と少々不安でしたが、研修が進んで行くうちに隣の方と話をしたり、新鮮な感じがしました。

午前中の研修①「児童福祉・里親制度」では近年色々な事件があり、子どもの命が脅かされる事も数多く、法改正など進められておりますが、まだまだ児童虐待は減りません。そんな中、要保護児童をなるべく家庭的な環境で育てて行こうと、国や県・市町村なども迅速に取り組んでくれています。一番心に残った言葉は、「子どもそのもの一人の人間であり、いろいろな権利がある」です。

五年に一度の更新を節目にして自分を見つめ直し、子どもに良い養育をしていきたいと思いました。

②「子どもの発達」では、発達に課題のある子どもへの支援や社会的養護で育った子どもの揺れる心、別れ、傷つき体験、自分のストーリー(出自)の不明からくる不安、行動に課題がある子どもの特徴など研修しました。子ども達は皆愛されたい、抱っこしてほしい、そのままの自分を愛して受け入れてほしい、そう思っている。しかし養育や施設で育っている子は、なかなか素直にそれを言えず、心にため込んでしまっているのかも知れません。その事をしっかり心に留めて子育てしていきたいと思いました。

午後からの研修③「子どもを育む対話スキル機中八策」では怒鳴らない、叩かない、上手な叱り方、待てる大人になる事、子どもに分かり易く伝える事などを研修しました。グループを作って実際に上手に叱る方法を皆でやってみました。初めて会った方ばかりでしたが、何度か練習をしているうちに、その場も和んで行き、とても良い研修になりました。

叱るより褒める、褒められるのは何度褒められても嬉しいから、ちゃんと分かってくれるようになる。子育ては難しい事も多く何が正解か悩み苦しむ日々もあります。今回の研修は、そんな私の心も開いて本当に為になる話して、とても良かったです。



## 4 里親支援専門相談員より



今年度から新たに、善光寺大本願乳児院と飯山学園に里親支援専門相談員が配置されました。これを機会に、里親支援専門相談員の配置されている北信地区4施設がより連携し、里親さんの支援を図ろうと、“長野県里親支援専門相談員北信地区連絡会”を発足しました。

そして、その一環として昨年11月14日に恵愛を会場として『長野県里親支援専門相談員北信地区連絡会研修』を開催いたしました。

当日は、「長野県の方向性」について県児童相談・養育支援室の樋口室長、「里親支援知っておきたい法律の話」として子どもの権利について岡田弁護士、また、「児童養護施設で期待されるこれからの里親支援の可能性」について、児童養護施設 京都聖嬰会 里親支援専門相談員の高野まり子さんをお招きして、貴重なお話をお聞きする事ができました。さらにグループワークでは、「子どもを中心とした里親養育支援の連携・協働」についての演習を行いました。

子どもを中心とした里親支援を目指して、里親支援専門相談員としてできることは何かを考え、実のある研修会となりました。

この研修会を開催するにあたり沢山の皆さまに御協力をいただき、ありがとうございました。

### ☆宮川里親さんより

#### 『研修会に参加して』

10時から夕方まで、行政説明、法律の話、自身が特養子でもある里親支援専門相談員さんの話、グループワーク、と学ぶことの多い一日でした。

子どもは‘保護の対象’から‘権利の主体へ’と変わっていること、権利実現のために福祉の役割があることを聞いて、「普段の養育が子どもの願いや希望を取り入れながらの養育なのか？」「権利実現のためにどんな動きをしているのか？」無意識で過ごしながら日常を振り返り、思いをめぐらす機会となりました。

また、講師の高野まり子さんの講演では、“誕生日は、私が生まれたことを実母が思い出してくれる日であればいい”、そう思いながら過ごしていること、数値目標ではなく子どものよりよい育ちを支える意識の大切さ、人ひとりの人生を変える責任の重さについて聞くことができました。

たくさんの施設職員や行政関係者が里親養育の支援のため、研修に参加されたことをうれしく心強く思いました。

研修を企画してくださった皆さまに感謝します。ありがとうございました。





## 「研修を終えて」

飯山学園 児童指導員 岡本 和子

「児童養護の現場において、施設等で集団での養育を行うことは知っているけれど、時折目にする『里親』って何だろう？」私は数年前ふと、このささやかな疑問を持ったのですが、結果としてその思いが今の仕事に就かせていただくきっかけとなりました。

前述のことから、早速この研修に参加させていただくことが出来たことは大変嬉しく、今回は限られた貴重な時間の中で多くのことを学ばせていただきました。

特に、子どもとその権利を守る理念や施策は除々に子ども自身を主体に考えられるようになってきていること、また、社会的養護の枠組みにおいては一人の子どもに対して様々な機関や組織が支援を行うことができるため各種連携が大切なことを知り、里親制度が孤独な取り組みではないことも分かって安堵しました。

研修では里親制度の認知度がまだ浅いことも改めて分かりましたので、今後は今回得た知識を少しずつでも周囲に広めていけたらと思っています。

## 「近くて遠い里親さん」



松代福祉寮 保育士 清水 秀

松代福祉寮に就職し、保育士として3年目を迎えました。正直な所、里親さんと密接な関係にある児童養護施設に就職してはいますが、里親さんの事について自分の中では知識不足なため、分からないことが多くありました。その中ですが、今回の研修に参加させていただく機会をもらうことになりました。

実際のところは、参加した研修の中で、今後の長野県の方向性や里親支援についての法律の話など、今の現場で精一杯になっている自分からすると、あまり身近なものと捉えることが難しいところもありました。しかし、その中で里親さんや、里親支援専門相談員が普段行っている取り組みや関係機関との繋がり等、知る事もたくさんありました。

京都市児童養護施設聖嬰会で里親支援専門相談員をされている、高野先生の講演の中で、『施設「か」里親「か」の二元論ではなく、施設「も」里親「も」として、施設と里親の相互理解やそれぞれの立場や視点から、児童の最善の利益の追求を行う』と話されていたことに、改めて現場で働く一人として、里親さんとの関係を大切に、お互いに協調しあいながら児童のために何が出来るか、これからも考えていきたいと思いました。

## 5



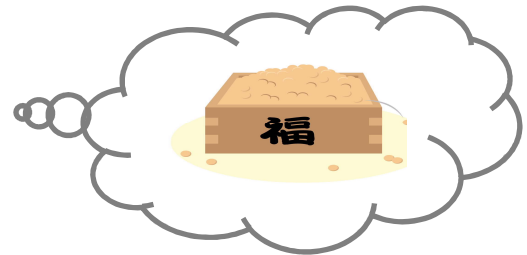
## 里親だより vol.50 発行！！

平成 18 年 7 月 25 日、県内 5 か所の児童相談所が協力し、“里親だより vol.1”を発行しました。平成 28 年に児童相談所広域支援センターが発足した後は、各地域の里親支援専門相談員と「長野県里親だより編集委員会」を設置し、発行してきました。

今まで里親の方々のご寄稿をいただきながら、毎年 3～4 回の里親だよりを作成し、今回、“vol.50”を発行することができました。

編集委員会としては、里親の方々への情報発信はもとより、市町村・福祉事務所といった行政職員への里親理解の促進も目標とし、広く県民の方々に里親を知っていただきたいと思い、ホームページへの掲載も行ってきました。

今後も皆さまのお役に立つ情報の発信に努めていきますので、お気づきの点やご意見などありましたら、お気軽にお寄せください。



## 6 お知らせ

### 「令和 2 年度の里親更新研修の開催予定」

令和 2 年度(2020 年度)の里親更新研修は、県下 3 地域で開催を予定しています。開催日程等が確定次第、県ホームページの中央児童相談所広域支援センターのページに掲載していきます。なお、参加方法については来年度にお知らせしますので、それまでお待ちください。

URL : <https://www.pref.nagano.lg.jp/chuojido/satoyakensyu.html>

開催地域	日 程	会 場
中信	令和 2 年 5 月 21 日 (木)	安曇野市堀金公民館
東北信	令和 2 年 9 月頃 (平日)	未定
中南信	令和 2 年 11 月頃 (土日祝)	未定

「里親だより」は長野県公式ホームページでも御覧になれます。

(長野県公式ホームページ→教育・子育て→児童福祉→こどもと家庭の福祉→里親支援事業について)

発行：長野県里親だより編集委員会

〒380-0872 長野市南長野妻科 144 児童相談所広域支援センター

TEL : 026-238-8030 FAX : 026-238-8025

[satoya-shien@pref.nagano.lg.jp](mailto:satoya-shien@pref.nagano.lg.jp)